

EXPRESS YOUR BUSINESS



We Find the Way
 **日本通運**
NIPPON EXPRESS



〈日本通運グループ企業理念〉

私たちの使命

それは社会発展の原動力であること

私たちの挑戦

それは物流から新たな価値を創ること

私たちの誇り

それは信頼される存在であること

We Find the Way

運ぶこと。

それは、新しい未来をつくろうとするお客様の思いを実現すること。

だから、どんなときでも、ただ一つの最善の方法を見つけ出し、必ずやり遂げる。

モノを運ぶとき、それがどんなに困難でも、

私たちは「できる・できない」の話をしない。

「どうやったらできるのか」だけを考える。

私たちに哲学があるとしたら、現場の試行錯誤こそがそれだ。

つねに最善を追求する人の力が、現場を支えている。

私たちはこれからも創意工夫を繰り返し、新しい道を切り拓き続ける。

物流が社会を豊かにしていく原動力であることを信じて。



発展を続けるアジア各地に
高品質な物流体制を。



We Find the Way

Episode 1

クロスボーダー輸送で描くASEAN物流の未来

2000年代初頭より、世界の「生産工場」として発展をしている東南アジア地域は、現在、経済成長の高まりとともに内需が拡大し、「消費市場」へ変化を遂げている。

モノの流れも、従来のアジア発、欧米向け輸出が中心の国際物流に加え、東南アジア地域内の物流のニーズが増大。とりわけメコン川流域に広がる大メコン圏（GMS）は、タイ製造業の産業集積と高度化により、隣接国への水平分業化が進み、ASEAN域内の生産物流の増加が見込まれている。

このようなASEAN物流の将来を見据えて、日本通運は世界の一大市場であるマレーシアやシンガポールはもちろん、さらなる成長が見込まれるCLMV（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）へ、タイを基点にクロスボーダートラック輸送を展開。物流要衝地への拠点設置や、タイ運輸省からのGMS越境交通許可証の取得等、域内での輸送の高度化を推進している。また、消費財の販

売物流に対応するロジスティクス拠点の拡充や、コールドチェーンやハラールロジスティクスといった付加価値の高い物流サービスの提供を含め、各国の市場特性に合わせた物流基盤の整備を進めている。

6億を超える人口を抱え、消費市場として急成長を遂げるASEAN諸国。経済を支える確かな物流体制の構築が求められる同地域において、日本通運は世界のニーズに迅速に応え、新たな物流のカタチを切り拓いていく。



**徹底した品質管理を通じて
人々の健康に寄与する。**

We Find the Way

Episode 2

医薬品物流の変化に対応する供給網を構築

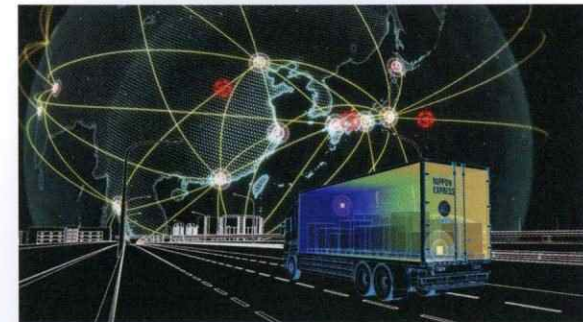
人々の命と健康に関わる医薬品物流。製造時はもとより保管・輸送中にも厳しい品質管理が必要な上に、災害時などのBCP対応を含めた、不断の安定供給も求められる。

2018年、医薬品の市場出荷から医療機関・薬局に渡るまでの品質を確保するため、厚生労働省によって適正流通基準(GDP)の日本版ガイドラインが発出。これを受けて日本通運は従来の原材料・製品の輸出入拠点であるメディカルハブ(成田、関空)に加え、東日本(久喜市)、西日本(寝屋川市)、九州(北九州市)、富山(富山市)にGDPガイドラインに則った拠点(医薬品センター)を順次着工し、新たな医薬品サプライネットワークを構築している。これまで医薬品メーカーの拠点は東阪に集中していたが、国内6拠点を共同配送網で結ぶことで、災害が多い日本における柔軟なBCP対応を可能にする。

また、医薬品サプライチェーンにおける調達・製造・販売業務に伴う物流プロセス全体を一貫して品質管理

し、温度逸脱などのリスクを軽減するほか、保管や輸送の共同化、輸配送車両のラウンドユースといった新たなスキームを採用するなどして医薬品物流の全体最適化を進めている。

医薬品物流を守ることは、その医薬品を必要とする人々の命を守ることに他ならない。だからこそ日本通運は物流品質を日々進化させ続け、安全そして確実に医薬品を届け続けるサプライネットワークを実現していく。



24時間動き続ける
自動車産業を支える。

We Find the Way

Episode 3

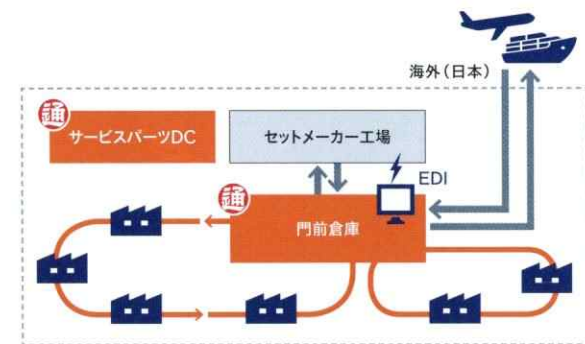
生産ラインを支える確かなロジスティクスを


1台の自動車を生産するには、約3万点もの部品の組み立てが必要となる。日本通運は各国の自動車産業が集まるアジア各地、北米・メキシコ、欧州などに、工場隣接の倉庫を配備し、24時間稼働の生産ラインに部品を供給する生産直結型ロジスティクスサービスを展開している。

全世界の部品供給に対応するため、自動車業界のサプライチェーンを熟知した営業とオペレーション人材を育成し世界各地に配置。業界の変化に合わせたビジネスモデルの開発と水平展開を行い、スムーズな生産・販売プロセスを実現する。タイムリーな部品供給を必要とする生産ラインを止めない体制整備は何より重要だ。新車の開発段階ごとの調達荷量とリードタイムに応じて最適な輸送方法は異なる。試作段階のイレギュラーな部品の緊急出荷、量産開始後の安定供給、生産設備本体の輸送やそれらの保守部品供給に至るまで、目的によって輸送方法を変え

られる、柔軟な物流オペレーションが日本通運の強みだ。また、非常事態におけるBCP体制を強化し、災害などで輸送ルートの変更が生じる場合も、複合一貫輸送サービスを提供するなど、安定した部品調達を支える。

効率性と生産性が求められる自動車産業だからこそ、輸送効率をさらに高め、24時間、絶え間ない生産体制を維持する最適なロジスティクスを実現する。それが日本通運の自動車産業に対する使命である。





1000年もの歴史と共に
国宝の仏像を運ぶ。

We Find the Way

Episode 4

数々の文化遺産を取り扱う、高度な専門輸送技術

世界文化遺産、奈良・法隆寺。この寺で2014年1月、東日本大震災からの復興を祈念する「法隆寺一祈りとかたち」への出品のために国宝・地蔵菩薩立像の梱包輸送が行われていた。法隆寺の地蔵菩薩立像は平安時代の作とされ、頭から台座の蓮肉部まで一木造の仏像。作業にあたったのは日本通運美術品事業部の7人の精鋭たちである。

美術品事業部は、さまざまな美術品の取り扱いはもちろん、材質や製作技法、歴史背景に至るまで幅広い知識を習得し、これまでも世界的遺産を含む多数の作品の梱包・輸送・通関・開梱、展示業務に携わってきた。

文化財の中でも、細かな装飾や彫刻が施された仏像は輸送の難度が最も高いとされる。作業では、その仏像の最も脆い部分をチーム全体で把握し、独自に開発した化学変化を起こさない「白薄葉紙」や和紙などを使って最も負荷が少ない方法で梱包を進めていく。軍手の繊維で仏像を傷つけないよう基本的に素手で作業するなど、細心

の注意が必要だ。

スタッフの熟練の技術に加え、高度な輸送手段も日本通運の強みである。温湿度管理システムやエアサスペンションなどを備えた美術品専用車や、空調・セキュリティを考慮した専用倉庫も保有する。かけがえのない文化遺産を運ぶ、失敗の許されない現場。プレッシャーも大きい。彼らは語る——「運べないものはないという気持ちを胸に、万全の準備を整え、丁寧にやり遂げる」。



日本通運の事業領域

日本通運は、国や地域といった境界線を越え人や企業を結ぶコンサルタントとして、ワンストップのロジスティクス・ソリューションを提供します。

調達先
(国内・海外)



ロジスティクス コンサルティング

お客様の物流戦略の立案から、ビジネスの各工程の物流改善まで、サプライチェーン全体の最適化を図るコンサルティングサービスを提供します。



モード別輸送 サービス



国内輸送・



グローバル・ ロジスティクス



ロジスティクス・ソリューション

世界を網羅するネットワークと蓄積された高度なロジスティクスのノウハウを駆使して、お客様のあらゆる物流課題にお応えします。

グローバルSCM (サプライチェーン・マネジメント)



ロジスティクス情報システム



あらゆる輸送モードを駆使し、その商材や産業の特性に合わせた最適なロジスティクスを実現します。専門性や技術力が求められる特殊品の輸送や、オフィス移転・引越しにおいても数多くの実績を誇っています。

フォワーディング



産業別輸送
サービス

→ 21



専門輸送
サービス

→ 23



ロジスティクス
センターデザイン

国内 No.1 の倉庫面積とネットワークをお客様の調達拠点・供給拠点・国際輸送拠点としてご提供。ロジスティクスセンターを核としたお客様のさまざまなニーズにお応えします。

→ 25

納品先
(国内・海外)

グリーンロジスティクス

→ 31

| サービス | **ロジスティクスコンサルティング**

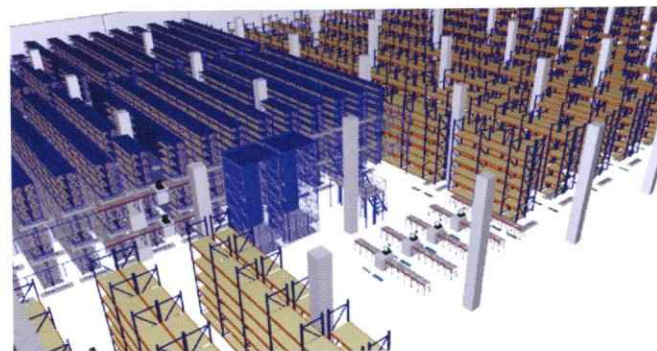
**物流のプロフェッショナルとして、
お客様の物流の最適化をお手伝いします**

ビジネスのグローバル化に伴い、今まで以上に複雑かつ多様な進化を遂げる物流。日本通運では、サプライチェーン上の課題や問題を解決し、効率的な物流システムを構築するために、日通グループの総力を結集したロジスティクスコンサルティングサービスを提供しています。創業以来、物流を通じて人、企業、地域を結びつけてきた実績やノウハウ、国内外の物流の調査・研究により蓄積されたデータ分析などが当社の強みです。物流コスト削減、作業の効率化といった現場でのオペレーション改善から、サプライチェーン最適化、海外進出などの事業戦略策定に至るまで経営戦略に則った支援や提言を行い、お客様の物流全体の最適化をサポートします。



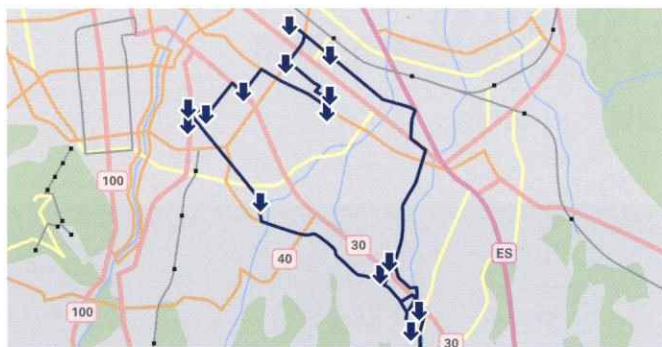
サプライチェーン最適化

スムーズなモノの流れを実現するために、「物流システム設計・構築」、「拠点集約・最適化」、「ロジスティクスセンター構築(立地選定・倉庫内設計)」など、お客様が抱える課題について現状調査やデータ分析により問題点を明らかにした上で、サプライチェーン全体を最適化するための改善プランを提案します。



ロジスティクスプランニング

商品の特性に合わせた保管効率の高いレイアウト設計のほか、作業シミュレーションにより、必要な荷役機器や作業スタッフを算出します。また、最新の自動化設備を導入した少人化されたオペレーションの企画・設計・導入もサポートします。稼働後は日々のオペレーションのKPIを分析し、継続的な現場改善を提案します。



輸配送ネットワーク改善

豊富な輸送ネットワークを有する日本通運は、さまざまなデータの蓄積や輸配送に関わるノウハウをもとに、商品特性や配送先、納入条件などを踏まえた「最適な配送ルートシミュレーション」「共同配送分析」など、輸送効率化を提案。国内はもとより、国際輸送におけるネットワーク改善にも対応します。



ロジスティクス情報システム最適化

お客様のビジネス規模や商物流に合わせて最適な情報システムを構築し、世界規模で在庫、入出庫、輸送情報を一元管理し、可視化しています。また、事業評価に必要な生産性や各種KPIなど、目的に沿ったシステム開発にも柔軟に対応することで、お客様のビジネスをより円滑に進めるためのお手伝いをします。

先端技術の開発・導入

日本通運は、物流現場の省力化を図る先端技術の開発・導入に積極的に取り組んでいます。労働力不足が課題視される中でも、さらなる生産性向上を実現し、お客様のビジネス拡大に寄与するため、さまざまなマテハンメーカーやスタートアップとの連携を図っています。AGF(自動フォークリフト)による夜間の倉庫出荷準備作業や、3Dカメラでルート上の障害物を検知しながら指定された場所まで貨物の横持ち作業を行うAGV(無人搬送車)など、国内外で導入実績があります。また、国が推進している自動運転への取り組み(高速道路におけるトラック隊列走行の実証)にも参画しています。



所定の出荷場所まで無人で荷役を行うAGF



トラック3台による後続無人隊列走行の実証実験の様子

| サービス | モード別輸送サービス

陸・海・空、あらゆる輸送モードを組み合わせて日本で、世界で、一貫輸送を展開



トラック輸送

全国を網羅するネットワークと機動力で、衣食住の全てに関わる貨物を迅速・確実・安全に配達。日本通運のトラック輸送は、小ロット化・多頻度化する物流ニーズに対応した積み合わせ輸送や、ミルクラン、共同配送など、配送効率向上・ローコストを実現するスマートな配送システムにより、貨物を安全に目的地まで運びます。さらには規格外の大きな貨物や高額貨物、オーダーメイドの特殊輸送、機密書類リサイクルサービス(エコリサイクル便)にも対応し、お客様の業務を全力でサポートします。



鉄道輸送

CO₂排出量がトラックの約1/10と、地球環境にやさしい輸送手段である鉄道輸送。長距離・大量になるほど輸送効率が高く、定時性・環境性にすぐれ、「モーダルシフト」の担い手として注目を集めています。日本通運では全国約120カ所のコンテナ取り扱い駅に窓口を設置し、トラックによる集荷・配達と連携した複合一貫輸送サービスを展開。独自に開発した小口貨物向けの6フィートコンテナから10トントラックと同等の積載容量を持つ31フィートコンテナまで用意し、お客様のニーズに合わせてあらゆる貨物を運びます。

日本通運は長い歴史の中で培ったノウハウやネットワークを活かし、トラック輸送・鉄道輸送・海上輸送・航空輸送のあらゆる輸送手段を駆使し、国内はもとより、日本から世界、世界の各地から各地へと一貫した輸送サービスを提供しています。

お預かりした貨物の特性を理解し、納期、距離、量、コスト、

環境などの面から輸送手段を自在に組み合わせ、高度化かつ多様化が進むお客様のニーズにきめ細かく対応しながら、安全・確実に目的地へ届けること。それらの全てを実現し、お客様のビジネスを物流面からサポートするのが日本通運の多彩な輸送モードです。



海上輸送

大量の貨物をローコストで長距離輸送できる海上輸送は、定時出港・定時入港による計画的で安定性の高い輸送手段です。また、CO₂排出量がトラックの約1/6であることから「モーダルシフト」の推進役としても期待されています。日本通運は7隻の定期高速船で全国8カ所の主要港を結ぶ国内海上輸送航路を展開し、海外では日本発着のみならず三国間輸送にも対応。多彩な輸送ニーズに対応するため、独自にコンテナを開発するなど、充実した輸送サービスを行っています。



航空輸送

全国各地や世界をハイスピードで安全・確実に結ぶ航空輸送。日本通運の航空輸送は、国内各地を網羅する広域サービス網を駆使し、全国主要都市への翌日配達のほか、当日配達や翌朝配達、特殊な対応が必要とされる貨物輸送にも対応しています。国際航空輸送においては、1,000路線以上のグローバルネットワークにより日本⇄海外の一貫輸送を行い、自社通関士による通関業務や、自社CFS（輸出入貨物専用の一時保管・荷捌き所）での積み付け・取り降ろしを提供します。

| サービス | グローバル・ロジスティクス

世界レベルのネットワークで、国内外問わず、グローバルな物流ニーズに的確に対応



米州ブロック

米国、カナダ、メキシコ、ブラジル、コロンビア、パナマに拠点を設置。米州をつなぐネットワークサービスを展開しています。密接な経済関係にある米国・メキシコ・カナダ間のクロスボーダー輸送サービスを提供し、現地の活発な自動車産業を支えています。またロサンゼルスにて海上輸送された貨物を国内トレーラーや鉄道に積み替えるトランスロードサービスを行うほか、LCL貨物を「クロスドック」方式にて迅速に全米へ転送、お客様のサプライチェーンマネジメントをフルサポートします。



欧州ブロック

ドイツやオランダ、英国など欧州主要各国や東欧諸国、ロシア連邦、アラブ首長国連邦に拠点を設置。ハイファッションを中心とする、アパレル関連物流に実績のあるグループ会社のノウハウやリソースを活用し、国際間輸送から商品保管、市場への配送までの一貫したロジスティクスサービスを展開。さらに、ファッションアイテムやインテリアなどを総合的に含めた、「ライフスタイルロジスティクス」への拡大を目指しています。またアフリカのケニア、モロッコにも拠点を開設しており、市場ニーズに応じた新興地域への展開なども積極的に行っています。

詳しくは日本通運 Web サイトへ



東アジアブロック

中国、香港、台湾、韓国の緊密な経済圏に物流ネットワークを構築。各都市を中心に現地法人を配し、輸送モードの多様化および国内・域内の物流拡充を推し進めています。内需の規模が大きい中国において、国内の主要都市を結ぶ幹線輸送、および各都市への配達網を完備したトラック輸送網で、電化製品・自動車部品などの調達物流、販売物流を展開。ほかにも中国・上海からシンガポールまで結ぶ陸路輸送ルート「SS7000」や、中国と欧州を結ぶ鉄道ルートを利用した輸送サービス「Eurasia Train Direct」を拡充し、ネットワークを拡大しています。



南アジア・オセアニアブロック

シンガポールやタイ、フィリピンなど東南アジア諸国連合(ASEAN) 9カ国と、インド、オーストラリアなどに現地法人や支店を設置しています。多様な文化が根ざし多様な物流ニーズがある東南アジア・南アジア地域において、さまざまな輸送ルート・輸送モードで結ぶクロスボーダー輸送ネットワークを構築。インドでは、自動車関連部品の効率的集約と配送を行うミルクランサービスやJIT物流を提供。また医薬品物流に対応するGDP認証の取得や温度管理輸送サービスを拡充するなど、発展する国と地域を物流面で支えています。

Europe

Asia

Africa

Eurasia Train Direct

中国と欧州の間を、中欧班列とよばれるブロックトレインがユーラシア大陸(中国・欧州間)を横断する当社の鉄道クロスボーダー輸送サービスです。

中国の各都市とヨーロッパの各都市間の10,000kmを、カザフスタン経由の南回りのルートとモンゴルやロシア経由の北回りルートで、ドアツードアの輸送を行います。

日本や南アジア諸国との接続も可能で、航空・海上輸送に加えた第三の輸送モードとして、ネットワークを拡大しています。

- ロシア(シベリア横断ルート)
- 中国 ↔ 欧州(北回りルート)
- 中国 ↔ 欧州(南回りルート)

グローバルネットワーク

● 日本通運・海外拠点

XB3300 (カナダ-アメリカ-メキシコ間のクロスボーダー輸送)



メキシコにおける自動車メーカーの生産拡大と関連部品メーカーの進出が急増する中、カナダ(トロント)～アメリカ(中西部・南部)～メキシコ(モンテレイ)間の3,300kmにおよぶ自動車産業集積地を結ぶトラック輸送サービスです。

● **Borderless Rail**

自動車関連産業の集積地であるオハイオ州マリオンから鉄道輸送を利用して、メキシコ(サンルイスポトシ)まで輸送する、日系物流企業で初めての鉄道クロスボーダー混載サービスです。

● **Borderless Truck**

全米各地からメキシコ国境に近いテキサス州ラレドに貨物を集約、トラックでメキシコ(サンルイスポトシ)まで輸送します。

North America

South America

SS7000 (上海-シンガポール間のクロスボーダー輸送)



上海からベトナム、ラオス、タイ、マレーシアを經由し、シンガポールまで約7,000kmのトラック輸送ルートを確立。このルートを基軸に大メコン経済圏内陸部を結ぶネットワークを拡大しています。

Oceania

| サービス | 産業別輸送サービス

高度化する産業の物流ニーズに 細やかに対応するサービスを提供

産業の高度化・グローバル化が急速に進む現代において、効率的な物流プラットフォームは、今やビジネスの成長・発展に欠かせないものとなっています。日本通運では、これまでにさまざまな産業分野の貨物を取り扱ってきた実績とグローバルなネットワークを活かし、それぞれの分野の物流ニーズに特化した輸送サービスを実現。在庫拠点・供給拠点などの専用施設や専用WMS(倉庫管理システム)、法令や業界ガイドラインに準拠した品質管理、独自開発した専用コンテナや包装資材など、それぞれの分野の特性を活かした物流プラットフォームを構築し、お客様のビジネスを物流面からフルサポートします。

※1 AS9120 航空宇宙産業における品質マネジメントシステム規格。日本通運は2011年に日系フォワードとして初めて同認証を取得。以降、米国を中心に、日本の航空宇宙産業における重要拠点である中部地区や成田でも認証を取得済みです。

※2 AOG 航空機が運航できず地上に駐機している状態を示す「Aircraft On Ground」の略で、航空機の各種改修、運航中に発生した損傷・故障などの修理で優先度が最も高い対応。航空会社から機体メーカー宛ての突発的に発生するオーダーに対し、日本通運は24時間365日納品可能な体制を構築しています。



自動車

グローバル化が進む自動車産業において、アジア各地、北米・メキシコ、欧州に門前倉庫を配置し、生産直結型の物流サービスを実現。ミルクラン集荷や納入代行倉庫などの調達手法を組み合わせ、各地の部品メーカーとセットメーカーを結ぶことで、生産体制をサポートします。



航空機

素材等の調達から生産物流、点検時の修理部品供給に至るまで全体を俯瞰したサービスを提供。AS9120 ※1 およびお客様の品質認証に基づく正確な部品オペレーション、日本通運独自の輸送コスト削減への取り組み、AOG ※2 対応など、ノウハウを駆使してフルサポートします。



精密機器

スマートフォンからサーバーに至るまで、日本通運では長年の精密機器物流で培った専門性を強みに、機器の特性に応じた輸送・保管・梱包・セッティングに一括で対応。高品質で途切れのない物流で、通信インフラを支えます。



ファッション

陸・海・空のあらゆる輸送モードで海外調達・配送・三国間輸送をシームレスに提供し、国内外のサプライヤーと店舗を結びます。また、豊富なSKUを揃える倉庫の効率運営と改善を重ね、トレンドに敏感なファッション・流通小売業界における物流ニーズにお応えします。



フード

グローバルネットワークと多彩な輸送モードを駆使して、発着一貫で全国各地や世界へ食の安全と美味しさをお届けします。鮮魚や青果をはじめ、鮮度を維持する温度管理が必要な食品輸送に対応。また、国内外でハラール認証を取得しており、ハラール対応の物流インフラの整備を進めています。



医薬品

当社独自の品質管理の下で、医療・医薬品を安全かつ確実にお届け先へ配送。万全のセキュリティが求められる治験薬や治験機器、温度管理や振動対策が必要な特定医薬品などにおいても、製品の特性に応じた最適な輸送方法をコーディネートします。



半導体

半導体のサプライチェーンは複雑で、すそ野は広く、ロジスティクスはグローバルレベルで動いています。日通グループではグローバルネットワークと日通NECロジスティクスの半導体取り扱いノウハウを駆使して、半導体メーカーの調達から生産、販売まで一気通貫で支えます。



その他産業

原料から最終製品まで幅広い化学産業をはじめ、鉄道車両、建材・建機、鋼鉄・非鉄金属、雑貨・日用品、飲料といった幅広い産業分野で取り扱いがあり、それぞれの業界における豊富な実績・ノウハウを強みとして、グローバルな物流サービスを展開しています。

| サービス | 専門輸送サービス

輸送が困難なモノを運ぶ『実行力』、 それが日本通運の専門輸送

日本通運は創業以来、多くのお客様の荷物を安全・確実に運んでまいりました。その中で、オフィス移転、重量品の輸送・架設・建設、現金輸送、国宝級の美術品輸送など、通常は輸送が困難とされるモノを運ぶ実績とノウハウを積み上げ、当社の強みとして専門輸送サービスを展開しています。取り扱いが極めてデリケートなものや、厳しい安全管理、セキュリティ体制を必要とする輸送に対応するため、スタッフの教育訓練、専用施設、独自の輸送システムの整備などを徹底し、輸送の品質を高めています。確かな実績と技術にもとづくサービスでお客様のハイレベルな要望にお応えする、その『実行力』が日本通運の専門輸送です。



詳しくは日本通運 Web サイトへ



引越し・移転

業界最大級の引越店舗数を有し、豊富な経験と多彩な輸送モードでお客様のニーズに合わせた最適な引越プランを提案。海外引越では、赴任者やご家族の海外生活立ち上げまでまるごとサポート。オフィス移転では、ビル全体の移転から事務所レイアウトの変更まで、規模や業種に関わらず幅広く対応します。



重量品輸送・建設

重量品の輸送・架設・建設を一貫して行う重機建設業者でもある日本通運は、発電所や各種プラントといった巨大設備の輸送・建設事業について、国内外を問わず多数の実績を有しています。また、液晶や半導体の製造装置を輸送し、ハイテク工場生産ラインの一括搬入などのニーズにも対応しています。



警備輸送

1965年の事業開始以来、貴重品運搬警備のパイオニアとして現在に至るまで国内No.1のシェアを獲得。ハイレベルな自社警備員とGPSや先進的な防犯装置を備えたプロフェッショナルな警備で金融機関同士の輸送や、量販店や飲食店向けに集配金サービスなどを提供し、お客様の貴重品を安全・確実に輸送します。



PCB 廃棄物収集運搬

強い有害性を持つPCB(ポリ塩化ビフェニル)について、当社はPCB廃棄物収集運搬許可を得て、処理施設への収集運搬や保管場所の移動業務を行っています。作業員全員にPCBの特性の教育や、安全・確実に作業する訓練を実施し、漏洩の点検と漏洩防止措置など徹底した安全管理と遵法体制のもとで業務を遂行します。



美術品輸送

国内外で文化遺産など数々の輸送を手掛け、国際的な評価も高い日本通運の美術品輸送。半世紀にわたって培われた経験のもと、卓越した技術を持つ専門スタッフが、美術品の特性に合わせ、優れた発想力で安全・堅実に運びます。特殊装備の美術品専用車、セキュリティや温湿度管理システムを備えた専用倉庫も保有。



セキュリティサービス

最高レベルのセキュリティでの輸送が求められる貴重品の輸送から、お客様データなどの個人情報・機密情報輸送、試験問題輸送まで、独自の輸送システムと輸送機材を使って安全・確実に目的地へ運ぶ多彩なセキュリティ輸送に対応するサービスを用意。万全のセキュリティ体制で、お客様に安心をお届けします。

| サービス | ロジスティクスセンターデザイン

商品の付加価値を高め、 物流の精度を高めるロジスティクスセンター

国内No.1の倉庫面積とネットワークを保有する日本通運のロジスティクスセンターは従来の在庫管理にとどまらず、お客様のビジネスを強力に後押しする機能を果たしています。例えば、情報システム(受発注業務、入出庫・在庫管理、輸配送業務における貨物トレースなど)や、業種・業態に合った流通加工機能(検品、梱包、値札取り付け、店舗別配送仕分けなど)といった付加価値のあるサービスによって、品質向上と効率化をサポート。さらに多彩な輸送モードを活用した輸送機能を組み合わせ、ロジスティクス全体のコントロールタワーとなる。それが日本通運のロジスティクスセンターです。



詳しくは日本通運 Web サイトへ



DC
在庫型物流センター

■ 入荷・入庫

仕入れ先から届いた商品などを、検品→カテゴリ別に仕分けをしてそれぞれの保管場所に格納します。入荷から出荷までの在庫状況はWMS(倉庫管理システム)によって管理されます。



TC
通過型物流センター

■ 入荷・検品

仕入れ先から届いた商品の検品を行います。TC(通過型物流センター)は商品在庫を持たず、仕分け・配送が中心であるため、各セクションの迅速な連携が重要。入荷から出荷まではWMS(倉庫管理システム)によって管理されます。



■ 保管

空調、遮光、セキュリティなど、商品の特性に応じた保管環境で、品番管理、数量管理、入庫日管理、納入元別管理、在庫報告などを行います。保管形態も、保税保管、業態管理(例：薬事法対応)、VMI、温湿度管理などさまざまな機能付加が可能です。



■ 仕分・検品・出荷

納品先ごとに貨物の仕分けを行い、出荷前検品を経てトラックで配送するほか、複数の仕入先からの貨物を物流センターに入荷後、即時に仕分けを行い出荷するクロスドックにも対応。最新の出荷情報と配車システムを組み合わせ、貨物のトレース管理も実施します。



■ 流通加工

在庫商品をピッキングして、お客様のニーズに応じて組立作業、梱包、ラベルやシール貼付といった流通加工を行います。商品の特性によって、通電検査、キッティング、検針・X線検査などの付加価値サービスを提供しています。



書類・メディア保管サービス

日々増え続ける書類やメディアを、厳重なセキュリティ体制のもとで保管・管理。ビジネス書類を保管する「書庫センター」、個人情報などを含む重要情報を記録した電子記録媒体などを、引き取りから保管・溶解処理まで行う「セキュリティシェルター」サービスを提供します。



■ 出庫・出荷

出荷検品を終えた商品を、さまざまな輸送モードで次の納品先(メーカー、個人や法人など)へ出荷。その商品の原材料や部品の調達から製造の過程を追跡可能な状態にするトレース管理も実施します。納品先ルールに合わせて、共同配送、JIT納品にも対応します。



その他サービス(貸倉庫・物流機器など)

日本通運の倉庫施設の中から、お客様のニーズに合った施設や物流関連設備を提案する「専用倉庫・貸倉庫サービス」、物流改善やアウトソーシングなどの「コンサルティングサービス」、日通商事による物流機器販売やリースなど、物流センター内業務を幅広くサポートしています。

| ソリューション | グローバルSCM (サプライチェーン・マネジメント)

国をまたぐ複雑なサプライチェーンの全体最適を実現する、
日本通運のグローバルなソリューションサービス

詳しくは日本通運 Web サイトへ



ビジネスのグローバル化が進む現在、原材料の調達から販売までのプロセスを最適化するサプライチェーンの見直しや構築が、企業の重要課題として挙げられるようになりました。日本通運では、最適な拠点体制や輸配送ネットワークを迅速に分析し、パフォーマンスの高いソリューションの提案や、世界各地のプラットフォームを駆使した物流サービスの提供などで、お客様の物流課題にお応えしています。

物流コスト重視の最適配置

お客様の海外における販売活動が拡大するにつれて、それに対応する物流拠点の追加・再編などが課題となります。そこで、輸配送や拠点運営費用などの物流コストを最小化することを目的に、お客様の過去の出荷実績や今後のフォーキャストデータを活用し、物流拠点の最適候補地を選定。最適な拠点数や配置場所を導き出します。

<現状>10DC



<あるべき姿>6DC



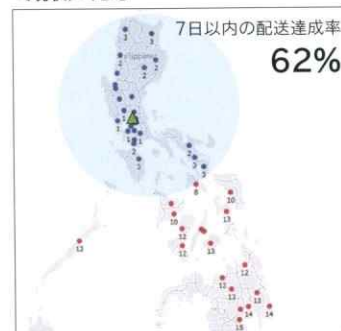
- 工場
- ▲ DC
- 工場 to DC
- 配送先
- DC to 配送先

10拠点から6拠点体制にすることで物流コストが18%改善

リードタイム重視の最適配置

現状の納品状況を踏まえた上で、リードタイムを重視するサプライチェーンの最適配置を分析。お客様が求めるリードタイムを最大限に遵守しつつ、物流コストや在庫配置なども考慮して、最適な拠点数と配置場所を導き出します。お客様の今後の販売戦略に応じ、当該国の国内ロジスティクスはもとより、国をまたぐ拠点の分析も可能です。

<現状>1DC



<あるべき姿>3DC



1拠点から3拠点体制にすることで納期遵守率が36%改善

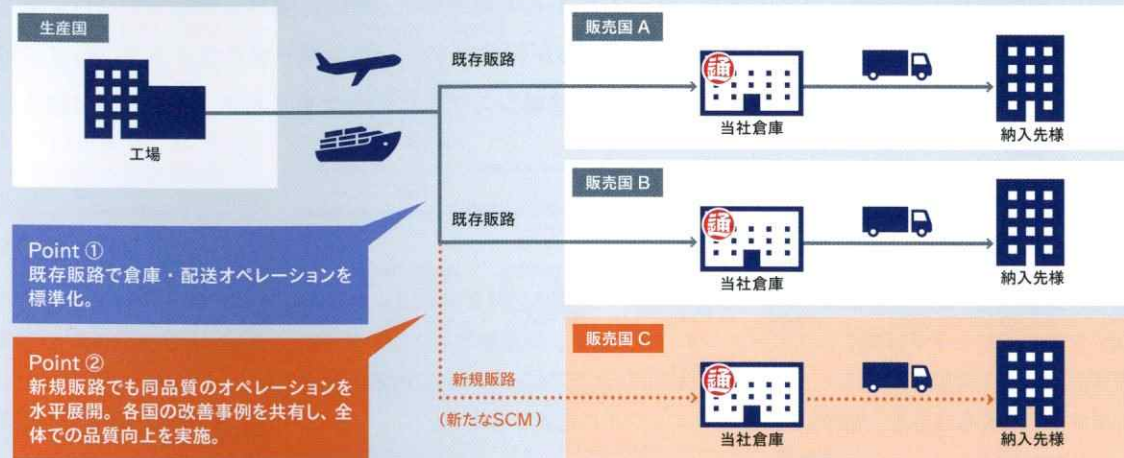
ソリューション事例

グローバル標準化オペレーション

日本通運では、お客様のグローバルサプライチェーンの拡大を支えるための、高品質かつ統一された物流サービスを提供しています。

グローバルビジネスの拡大にともなう新たなサプライチェーンの構築イメージ

お客様固有のご要望を取り込み、高品質な保管・配送オペレーションを確立すると共に、その標準化を実施します。また、新たな海外マーケットへ販売網を拡大する場合においても、スムーズに物流基盤を築き、同品質の物流サービスをご提供し、お客様のグローバル事業のさらなる成長に貢献しています。



倉庫内オペレーションの標準化事例



作業の見える化・定置化



スタッフ教育プログラム



教育専用の動画マニュアル



動作解析による標準作業の策定

| ソリューション | ロジスティクス情報システム

豊富な実績とノウハウを集約し独自に開発したシステムにより、
お客様の物流ニーズをグローバルにサポート

詳しくは日本通運 Web サイトへ



日本通運では、物流業務の効率化、コスト削減、リードタイムの短縮など、物流に関わる多様なニーズにお応えする独自のシステムの構築・運用を行っています。サプライチェーン全体の進捗の照会が可能なグローバルポータルサイトや、拠点規模やニーズに応じた物流センターシステム(WMS)など、当社の実績とノウハウを結集した情報システムを提供することで、お客様の業務を力強く支援します。

V-PROCESS(グローバルポータルサイト)

国内外の調達の進捗状況、貨物輸送状況など、サプライチェーン全体のリアルタイムな情報の“見える化”をワンストップで実現するグローバルサービスです。事業者間をつないで、お客様毎の管理ポイントで進捗管理を行い、最新の状況をWEB上でスピーディーに確認。管理番号や進捗単位での照会も可能で、複雑な国際輸送をシンプルに把握できます。

V-PROCESS

事業者をつないで全体を
“見える化”

グローバルサービスを
ワンストップで

発注から納品まで
一元管理

NEWTON(グローバル標準倉庫管理システム)

物流センターを基軸とするロジスティクスサポートシステムとして、小規模単一拠点から大規模複数拠点まで幅広く対応。倉庫の保管・入出荷管理などに関わる倉庫支援機能を中心に、外部連携機能、輸出入システム連携機能、配送支援機能などの機能を備えており、お客様からお預かりした商品のサポートと物流業務の最適化を実現します。



ソリューション事例

NEWTONを用いた物流センター管理

食品共配の物流センターにNEWTONを導入し、作業生産性の向上を実現

システム改善前

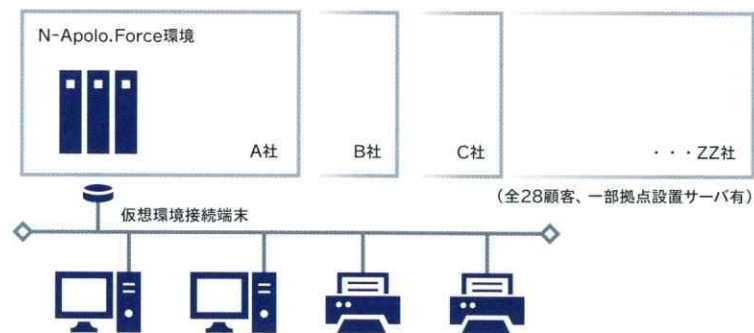
複数のお客様を抱える物流センターで、お客様ごとに在庫管理システムを導入していたため、お客様単位での作業状況しか把握できず、センター全体で作業進捗を把握できない状況にありました。

また、1日平均90,000ケースの入出庫に対して、ハンディターミナルを使用せず、目で確認を行っていたことから、作業時間の短縮や作業品質の確保が課題となっていました。また、使用していたシステムでは、OSのバージョンアップへの対応などにも問題を抱えていました。

システム改善後

全顧客の現場運用を標準化しグローバル標準倉庫管理システム「NEWTON」を改修後、移行しました。同時に無線ハンディターミナルや携帯ラベラーを導入。作業品質が均一化され、属人性の排除や、作業生産性の向上が実現しました。さらにセンター全体での作業進捗も把握できるようになりました。

他にも、OSのバージョンアップ対応時のリスク低減による運用コスト削減、作業スタッフの超勤時間ならびにドライバーの待機時間の最小化などの改善につながりました。



| ソリューション | グリーンロジスティクス

日本通運は、日本通運にしかできない方法で環境に配慮した
物流サービスをご提供し、明日の地球環境を守ります

詳しくは日本通運 Web サイトへ



“モノを運ぶ”物流が、環境に与える影響は想像以上に大きい。環境負荷の低減は、ロジスティクス・カンパニーにとって率先して行動する課題です。日本通運では、輸送モード転換や輸送効率化、資材リユースによるCO₂削減を目的としたサービスから、リサイクルなどの循環型サービスや産業廃棄物処理などの環境保全型関連サービスまで多様なグリーンロジスティクス・サービスをご提供しています。

モーダルシフト

日本通運グループは、お客様企業と物流事業者の連携・協働を進め、トラック中心の輸送形態から、鉄道・船舶を利用した輸送形態へ切り替える「モーダルシフト」に数多く取り組んでいます。モーダルシフトは環境負荷の低減や輸送の効率化に加え、BCP対策としても推進されています。



循環型、省資源型サービス

オフィスから排出される紙資源のリサイクルや、家庭から排出される使われなくなった家電のリサイクル、引越用梱包資材の反復利用による省資源型引越サービスなどをご提供しています。



共同配送サービス

共同配送サービスでは、複数のお客様の同一カテゴリの商品を一括配送することによって、物流全体の効率化を図ります。無駄な配送コストを抑え、CO₂排出抑制にも貢献。地球環境にやさしく、コストパフォーマンスにも優れた配送を実現します。



ソリューション事例

自動車メーカーの部品調達をモーダルシフトによって改善

個別に手配していた調達をミルクランで一元管理。モーダルシフトの導入につながり、CO₂排出量も大幅に削減しました。

改善前の問題点

中国地区にある自動車メーカーは、各部品メーカーがそれぞれ手配したトラックで、東海地区から工場まで部品を配送し、生産を行っていました。その為、トラックから鉄道コンテナにモーダルシフトするには十分な物量を確保できていませんでした。また、片道の輸送について部分的に10トン車分に相当する31フィート鉄道コンテナを利用しても、定期的な利用の為には、中国地区から東海地区に空でコンテナを廻送することになり、効率的な運用が難しい状況でした。

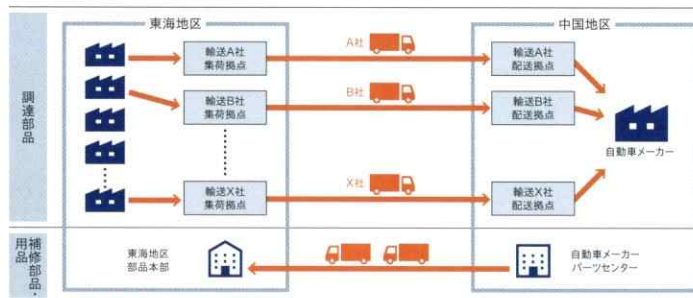
改善のポイント

東海地区での部品調達にミルクランシステムを導入し、発送する部品を一カ所に集約することで、幹線部分の輸送をトラックから鉄道輸送に変更できるだけの物量を定期的に確保することが可能となりました。一方、生産工場近隣地区から東海地区の大口販社向けの補修部品輸送として、上記の鉄道コンテナの廻送を利用することで、往復実車によるコンテナの効率的な運用とCO₂排出量の大幅削減が達成されました。

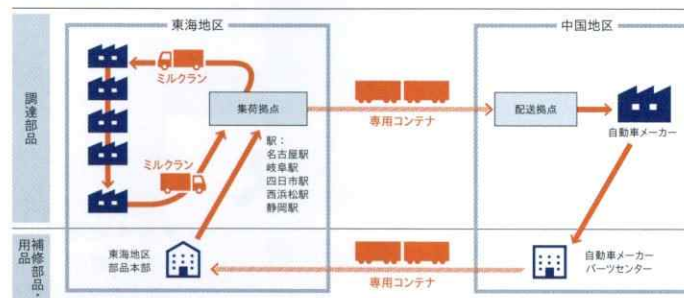
改善効果

ミルクランによる部品調達の効率化と鉄道へのモーダルシフトを組み合わせることで、CO₂排出量が30%以上削減されました。本事例は、グリーン物流パートナーシップ普及事業として採択され、設備導入に関する補助を受けています。

改善前のフロー



改善後のフロー





「すべては、物流を通して社会に貢献し、豊かな未来を創る、日本通運グループであるために。」
 日本通運グループでは、グループ企業理念のもと、事業を通じて、お客様や社会に対して貢献すると共に、社会課題の解決に向け、ESG経営を積極的に推進しています。

日本通運のESG経営

物流企業としてCO₂排出量削減にこだわる



- 施設照明のLED化
- 環境配慮車両への切替え

【事業を通じた貢献】

- モーダルシフト・共同配送の推進
- 資源循環営業の取組み



社員が幸せを感じる企業に変革する



- ダイバーシティの推進
- ワークスタイルのイノベーション

【事業を通じた貢献】

- 災害時指定公共機関
- 雇用や社会課題解決を通じた地域社会への貢献



持続的な企業価値向上を支える仕組みを構築する



- 安全・コンプライアンス・品質の徹底
- ホールディング制を視野に入れたグローバルガバナンスの進化
- 資本政策 (ROE10%)
- 情報開示





社会貢献活動

日本通運グループでは、物流企業としての社会的・公共的使命を認識するとともに、良き企業市民として、地域・社会とのさまざまなコミュニケーションの機会を通じて、社会や文化の発展に根差した社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。



災害支援活動

東日本大震災(2011年)や熊本地震(2016年)、平成30年7月豪雨等の災害発生時、日本通運は全国から被災地へ支援物資を緊急輸送しました。



森林育成活動

日本通運では、「日通の森」を設け、地元の町役場や森林組合などの協力・指導のもと、従業員とその家族による、植樹や下草刈りを中心とした森林育成活動を実施しています。



交通安全教室

日本通運では、地域とのコミュニケーションの活性化や交通安全の向上、さらには従業員の安全意識向上のため、地域の小学校などで交通安全教室を開催しています。



スポーツ振興

社会人野球の名門として多くのプロ野球選手を輩出している野球部をはじめ、剣道部、柔道部、相撲部、ゴルフ部の5つが日本通運の運動部として活躍しています。野球部では子供たちを対象に毎年野球教室を開催しています。



海洋データ収集

東京～北海道航路で運航している日本通運の内航船「ひまわり8」では、NPO法人ヴォース・ニッポン様の観測機器を搭載してデータを収集し、海洋に関する予測や研究に役立てています。



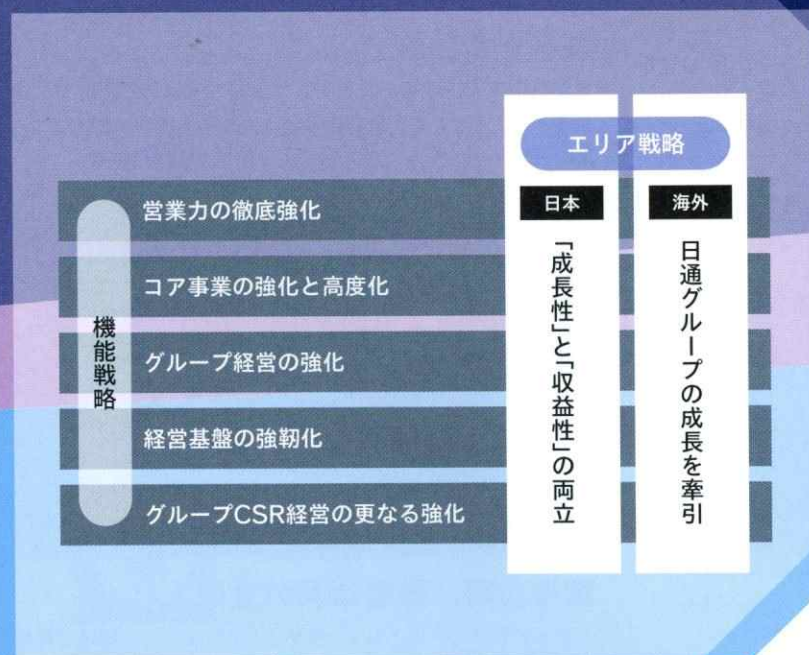
職場訪問、職場体験の受け入れ

キャリア教育の一環として、中学生、高校生などの職場訪問や職場体験を受け入れています。日本通運の従業員との意見交換や体験を通じて、職業意識を醸成し、次世代を担う人材の育成に貢献しています。

日通グループ経営計画 2023 ～非連続な成長 “Dynamic Growth”～

日本通運グループは、2019年より新たな長期ビジョン(2037年ビジョン)を掲げ、その実現に向けた5ヵ年の経営計画をスタートさせました。グローバル市場で存在感を持つために、ステークホルダーとともに、私たちは、非連続な成長を遂げてまいります。

日通グループ経営計画 2018 — 新世界日通。 —



日通グループ経営計画 2023 ～非連続な成長 “Dynamic Growth”～

事業の成長戦略

コア事業の成長戦略

日本事業の強靱化戦略

長期ビジョン実現のための取り組み

非連続な成長戦略

取り組みを支える機能強化

持続的成長と企業価値向上のためのESG経営の確立

日通グループ経営計画2023 経営目標

数値目標（2024年3月期 達成目標）

売上高	2兆4,000億円
営業利益	1,000億円
営業利益率	4.2%
当期純利益	630億円
海外売上高	6,000億円
ROE（自己資本利益率）	10%
フォワーディング数量	海運130万TEU / 航空140万t

セグメント別数値目標（2024年3月期 達成目標）（単位：億円）

セグメント	売上高(※)	営業利益(※)
日本	13,400	620
米州	1,350	72
ロジスティクス	1,600	64
東アジア	1,700	51
南アジア・オセアニア	1,350	63
重量品建設	540	45
警備輸送	760	11
物流サポート	5,300	144

※セグメント間取引消去前の数値

長期ビジョン成長イメージ

(■ 国内売上高 ■ 海外売上高)

2024年以降

長期ビジョン（2037年ビジョン）の実現

事業成長

グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー

顧客・社会

持続可能な社会の実現に、物流を通じて貢献する企業

株主

コーポレートガバナンスを確立し、持続的成長を果たす企業

社員

多様な社員が、顧客や社会を支える仕事に誇りを持ち、活躍する企業

変えるべき価値観

イノベーションによる新たな価値創造

変わらぬ価値観

安全・コンプライアンス・品質 **We Find the Way**

グループ企業理念

私たちの使命 それは社会発展の原動力であること
 私たちの挑戦 それは物流から新たな価値を創ること
 私たちの誇り それは信頼される存在であること

日本通運の沿革・歴史

日本通運グループは、創業以来、ものを運ぶことを通して、人、企業、地域を結び、社会の発展を支えてきました。これからも、社会の変化に合わせ、自らを進化させ続け、物流から新たな価値を創造することに挑戦してまいります。



詳しくは日本通運 Web サイトへ

〈明治5年〉 陸運元会社を設立

江戸定飛脚問屋・和泉屋の支配人の佐々木莊助が中心となり、運輸会社として陸運元会社設立。他の飛脚問屋もこれに合流し、今日に至る企業体として創業。



〈明治8年〉 内国通運会社に改称

陸運元会社は政府の保護を受け、飛脚時代の輸送網を再編。社名を内国通運会社と改める。

〈昭和3年〉
国際通運株式会社として発足
内国通運が国際運送と明治運送、国際通運(旧合同運送)を吸収合併し、社名を国際通運株式会社として発足。

〈昭和12年〉
日本通運株式会社を創設
10月1日に「日本通運株式会社法」に基づく半官半民の国策会社として、民間企業・国際通運の業務を引き継ぐ形で発足。2017年に創立80周年を迎え、今日に至る。

〈昭和25年〉
日通株を上場、純然たる民間会社として再出発
通運事業法が施行され、国策会社から一民間企業としてのスタートを切る。

〈昭和26年〉
日通式コンテナ試験輸送を実施。美術品輸送業務の開始
日通式コンテナは小型の折り畳み式であり、さまざまな現場で使用された。サンフランシスコのデ・ヤング美術館で開催された日本古美術展の輸送から本格的な美術品輸送がスタートした。

〈昭和33年〉
ニューヨーク初代駐在員を派遣
アメリカのREA社と提携の2年後、同社のデスクを借りてスタート。航空・海運貨物、海外引越、旅行などのアメリカ側代理店の品質チェックを行っていた。



〈昭和37年〉
米国日通を設立
当社初の海外現地法人。NY初代駐在員が副社長として現地で奮闘する。



〈昭和39年〉 東京オリンピックを運ぶ

オリンピック大会公認運送人として指定。競技用具、手荷物、開会式で放す鳩の輸送のほか、マラソンや自転車の練習コースづくりやケガをした競技用馬輸送のためのコンテナ作製などあらゆる要請に応えた。



〈昭和49年〉 「モナ・リザ」を運ぶ

当時、アメリカに渡った以外は門外不出であった名画を上野・東京国立博物館へ輸送。



〈昭和45年〉
日本万国博(大阪)を運ぶ
指定運送・通関業者として各国から集められた展示品、販売品を輸送、搬入、据え付け、撤収までを請け負う。現在もシンボルとして残る「太陽の塔」の顔部分の輸送も担当。



〈平成3年〉
東京都庁の移転作業を実施
荷物量は2トン車にして延べ3,500台分、6,500人の人員が投入されて移転を実施。マスコミでも話題となった。



歴史

1872 1875

沿革

1928

1937

1950

1951

1958

1962

1964

1970

1974

1991

〈平成7年〉
阪神淡路大震災で指定公共機関として救援物資などを輸送
トラック延べ3,200台、貨物船延べ225隻を投入し、救援物資を輸送した。物流は水道やガスと同様にライフラインであることが改めて認識される。



1995

〈平成10年〉
「物流博物館」を開館
当社本社ビル内にあった「物流史料館(旧・通運史料室)」をベースに、東京都港区に新たに博物館として誕生。物流全般について紹介し、同時に企業資料を保存・公開している。



1998

〈平成10年〉
国立天文台「すばる望遠鏡」を輸送
すばる計画に関わるほとんど全ての貨物の輸送を担当した。世界最大級の主鏡はドイツから輸入した特殊トレーラーを用いて標高4,200mのハワイ島マウナケア山頂まで運び上げた。



1998

〈平成15年〉
本社を汐留地区に建設
新本社ビルへ移転
当社の事業の原点ともいえる鉄道発祥の地、汐留地区で、グローバル企業としての新たな顔となるべく、「知的創造性を生み出す空間づくり」「人と環境にやさしい建物」「周辺地域への貢献」をテーマに竣工した。



2003

〈平成17年〉
愛知万博「愛・地球博」を運ぶ
場内指定事業者として愛知万博の開催準備を物流面からサポート。話題となった「マンモス」は、当社の総合物流機能を駆使し、シベリアからの冷凍輸送を無事成功させた。



2005

〈平成20年〉
海外進出50周年。
物流環境大賞と物流環境啓蒙賞をダブル受賞
自動車部品の輸送をトラックから鉄道コンテナへモーダルシフト。CO₂削減のみならず、リードタイムの短縮も実現したことが評価され、物流環境大賞を受賞。同時に産業廃棄物処理における教育体制が評価され、物流環境啓蒙賞を受賞。

2008

2011

〈平成26年〉
海外拠点500拠点を突破



〈平成23年〉
東日本大震災で救援物資などを輸送

24時間体制で陸・海・空の輸送モードを駆使した支援物資輸送を行った。トラックの台数にして延べ6,810台の輸送を行った。

2014

2015

〈平成29年〉
Tokyo C-NEXがオープン
当社最大規模の物流拠点。都心部へのアクセスはもとより、鉄道コンテナ・空港・港などの各基地まで30分以内と、物流拠点として好適な立地にある。



2017

〈平成27年〉
海外従業員20,000人を突破

2017

〈平成30年〉
築地市場の移転作業を実施
日本の台所として83年の歴史を刻んできた築地市場を豊洲市場へ移転。4.5日間で2トントラックにして約5,300台分の荷物を輸送した。



2018

〈平成29年〉
企業メッセージ
「We Find the Way」を制定
創立80周年を迎え、新たな企業メッセージを制定。お客様の思いを実現することに対する日本通運の強い意志と自信をメッセージに込めた。

会社名：日本通運株式会社

本社：〒105-8322 東京都港区東新橋1-9-3
TEL03-6251-1111

設立：1937(昭和12)年10月1日

資本金：701億75百万円

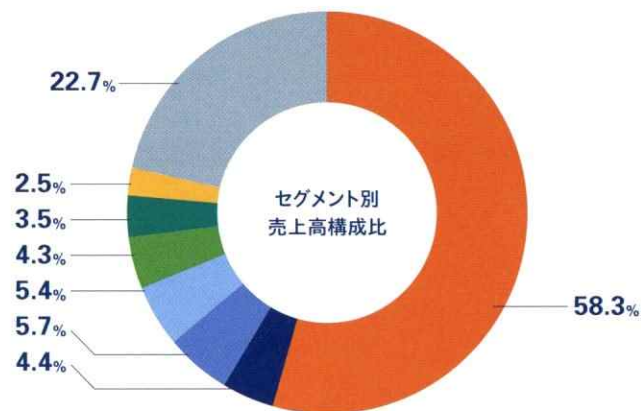
売上高：2兆803億52百万円(2020年3月期)

営業利益：592億24百万円(2020年3月期)

事業内容：貨物自動車運送事業 利用航空運送事業
船舶利用運送事業 内航海運業
鉄道利用運送事業 倉庫業 警備業
重量物の運搬、架設、設置およびこれに付随する事業
建設業 旅行業 通関業ほか

連結売上高

2兆803億円

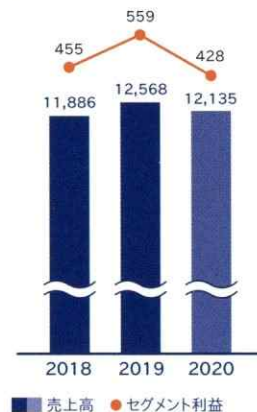


■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ 東アジア ■ 南アジア・オセアニア
■ 警備輸送 ■ 重量品建設 ■ 物流サポート

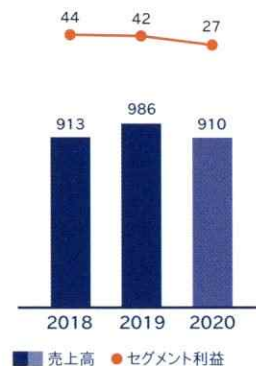
※ グラフの比率は調整額を除いて作図しております。

売上高、セグメント利益の推移(億円)

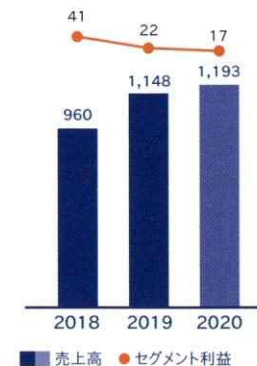
日本



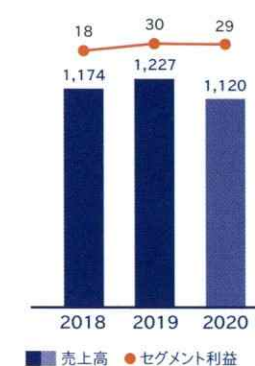
米州



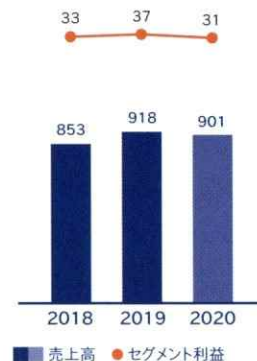
欧州



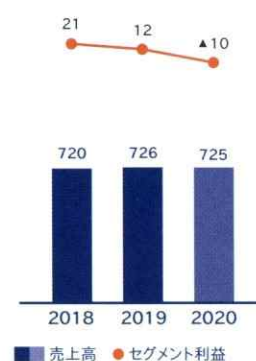
東アジア



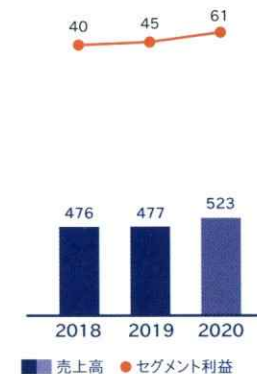
南アジア・オセアニア



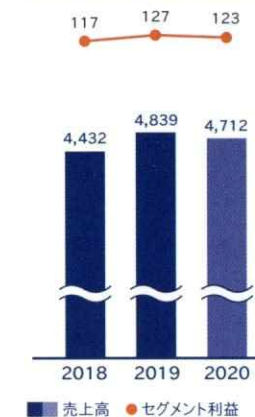
警備輸送



重量品建設



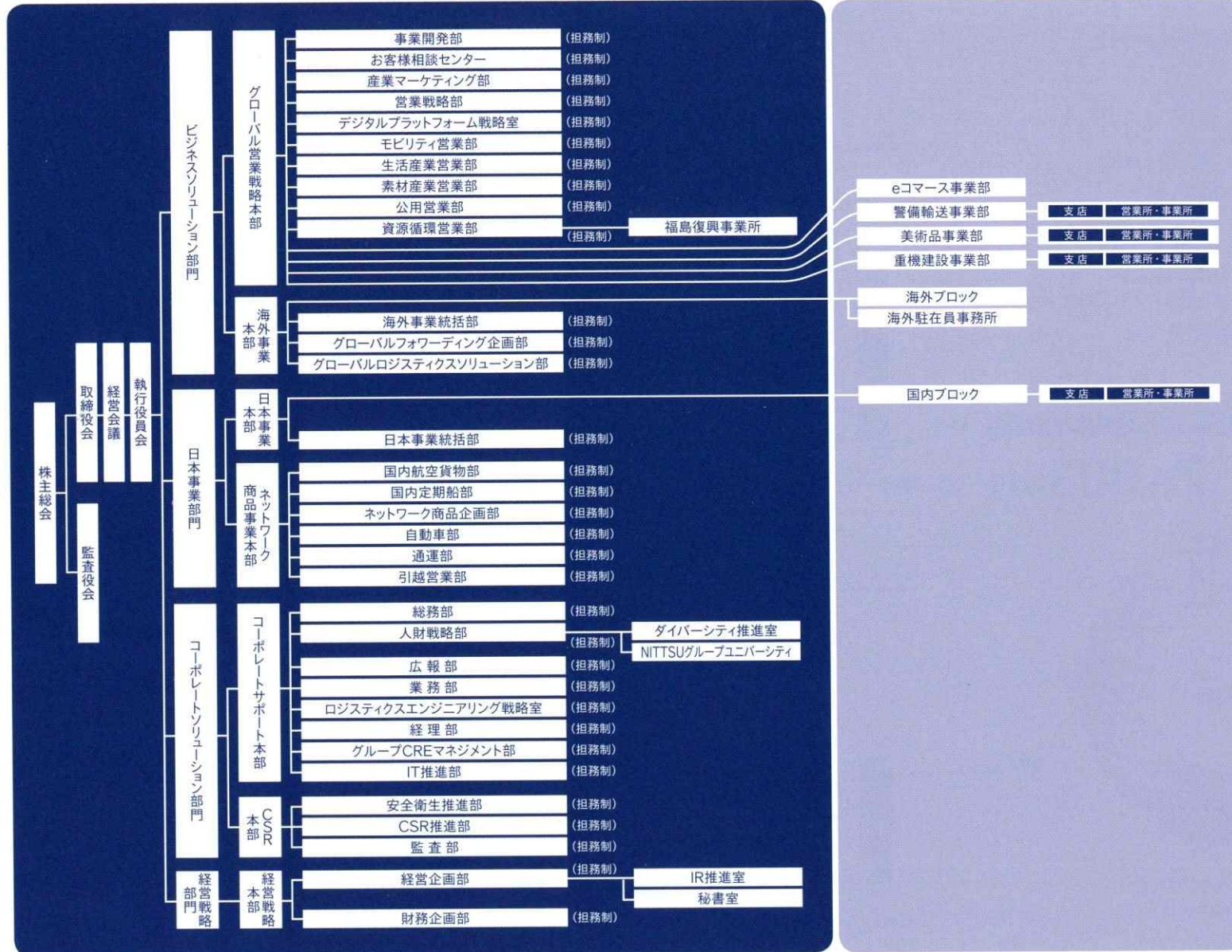
物流サポート



(2020年4月1日現在)

本社

現業店所



国内ネットワーク

北海道ブロック

- 札幌支店
- 苫小牧支店
- 道南支店
- 旭川支店
- 北見支店
- 釧路支店
- 帯広支店
- 札幌航空支店

東北ブロック

- 仙台支店
- 東北総代理支店
- 山形支店
- 東北グローバルロジスティクス支店
- 盛岡支店
- 青森支店
- 秋田支店
- 郡山支店

関東甲信越ブロック

- ロジスティクス事業支店
- キャンオン事業所
- エプソン事業所
- ヘルスケア事業所
- オートモーティブビジネス支店
- 東京ロジプロ支店

グローバルネットワーク

米州ブロック

- 米国日本通運
- 日通オハイオ運輸
- アソシエーテッド・グローバル・システムズ (AGS)
- 米国日通旅行
- カナダ日本通運
- ブラジル日本通運
- メキシコ日本通運
- NEXグローバルロジスティクス メキシコ
- アデルタ・ロジス

欧州ブロック

- 欧州日本通運

全282支店

航空事業支店
羽田空港支店
成田空港支店
海運事業支店
東京海運支店
横浜国際輸送支店
京浜港ターミナル支店
海外引越事業支店
首都圏支店
隅田川支店
品川支店
新砂支店
東京北支店
東京コンテナ支店
アマゾン首都圏事業所
埼玉支店
深谷支店
多摩支店
茨城支店
横浜支店
神奈川東支店
川崎支店
神奈川西支店
千葉支店
千葉南支店
千葉東支店

群馬支店
宇都宮支店
新潟支店
中越支店
長野支店
伊那支店

中部ブロック

名古屋支店
名古屋ロジスティクス支店
中京コンテナ支店
豊橋支店
三重支店
岐阜支店
福井支店
オートモーティブロジスティクス支店
三河支店
名古屋航空支店
中部空港支店
名古屋国際輸送支店
静岡支店
静岡東支店
浜松支店
金沢支店
富山支店

関西ブロック

大阪支店
大阪東支店
大阪西支店
大阪北支店
大阪南支店
アマゾン大阪事業所
大阪コンテナ支店
和歌山支店
グローバルロジスティクス支店
シャープ大阪事業所
パナソニック事業所
大阪航空支店
大阪国際輸送支店
神戸国際輸送支店
神戸支店
姫路支店
京都支店
舞鶴支店
滋賀支店

中国・四国ブロック

広島支店
大竹支店
福山支店
広島航空支店

山陰支店
岡山支店
下関支店
防府支店
四国支店
松山支店
新居浜支店

九州ブロック

福岡支店
大分支店
熊本支店
長崎支店
宮崎支店
鹿児島支店
北九州支店
久留米支店
九州オートモーティブロジスティクス支店
福岡航空支店
福岡海運支店
門司海運支店

eコマース事業部

警備輸送事業部
関東警送支店
横浜警送支店
北関東警送支店

中部警送支店
静岡警送支店
北陸警送支店
関西警送支店
京滋警送支店
北海道警送支店
東北警送支店
中国警送支店
四国警送支店
九州警送支店

美術品事業部

関東美術品支店
関西美術品支店

重機建設事業部

北海道重機建設支店
東北重機建設支店
関東重機建設支店
鶴見重機建設支店
中部重機建設支店
関西重機建設支店
中国重機建設支店
四国重機建設支店
九州重機建設支店



国内ネットワークの詳細はこちら

全744拠点

ドイツ日本通運
ロシア日本通運
NEXロジスティクス・ヨーロッパ
英国日本通運
アイルランド日本通運
オランダ日本通運
日通ユーロカーゴ
ベルギー日本通運
フランス日本通運
イタリア日本通運
スイス日本通運
スペイン日本通運
ポルトガル日本通運

中東日本通運
トルコ日本通運

東アジアブロック

日通国際物流(中国)
香港日本通運
蘇州日本通運
日通国際物流(深圳)
日通国際物流(珠海)
日通汽車物流(中国)
日通儲運(深圳)
日通国際物流(上海)
日通国際物流(廈門)
APCアジアパシフィックカーゴ

広州南日貿易
聯海通運
日通国際供应链管理(上海)
上海e-テックロジー
韓国日本通運
台湾日通国際物流

南アジア・オセアニアブロック

南アジア・オセアニア日本通運
シンガポール日本通運
NEXグローバルエンジニアリング
マレーシア日本通運
マレーシア日通トランスポート
フィリピン日本通運

ネップ ロジスティクス
インドネシア日本通運
日通インドネシア物流
NEXロジスティクスインドネシア
バングラデシュ日本通運
カンボジア日本通運
タイ日本通運
日通ロジスティクスタイランド
タイ日通エンジニアリング
ベトナム日本通運
ベトナム日通エンジニアリング
ミャンマー日本通運
日通ロジスティクスミャンマー

インド日本通運
インド日通ロジスティクス
オーストラリア日本通運
ニュージーランド日本通運



グローバルネットワークの詳細はこちら



グループ会社の詳細はこちら

ロジスティクス

日本海運株式会社
日通旅行株式会社
大阪倉庫株式会社
徳島通運株式会社
備後通運株式会社
北旺運輸株式会社
北日本海運株式会社
蔦井倉庫株式会社
函館エアサービス株式会社
東北トラック株式会社
塩竈港運株式会社
仙台港サイロ株式会社
日本海倉庫株式会社
境港海陸運送株式会社
日通トランスポート株式会社
日通・NPロジスティクス株式会社
日通NECロジスティクス株式会社
株式会社ワンビシアークイブズ

物流サポート

日通商事株式会社
日通機工株式会社
日通不動産株式会社
株式会社日通総合研究所
日通キャピタル株式会社
株式会社日通自動車学校
キャリアロード株式会社

人員

〈従業員数〉

連結	73,549	名
単体	34,449	名
海外従業員数	22,849	名
海外勤務経験者累計	4,398	名

〈セグメント別従業員数内訳〉

日本	42,527	名
米州	2,978	名
欧州	3,592	名
東アジア	4,888	名
南アジア・オセアニア	8,093	名
警備輸送	6,674	名
重量品建設	834	名
物流サポート	3,963	名

規模

子会社	292	社
関連会社	68	社
海外ネットワーク	48	力国
	321	都市
	744	拠点

設備

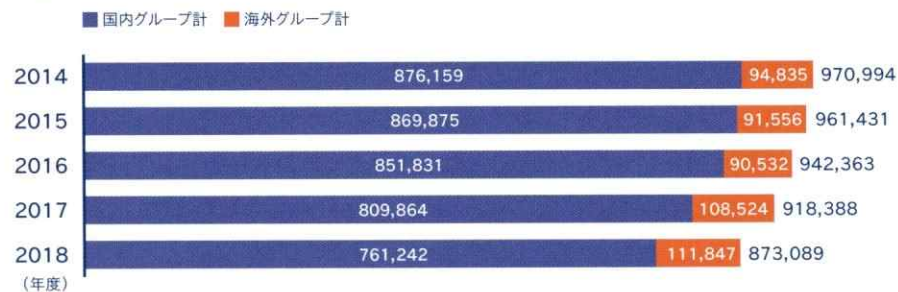
自動車台数(単体)	14,299	台
荷役・建設車両台数(単体)	5,105	台

倉庫

営業倉庫	約 1,100	拠点
	約 320	万m ²
国内流通施設	約 2,400	拠点
	約 740	万m ²
海外倉庫面積	約 350	万m ²

環境保全

CO₂排出量の推移 (Scope1、2) (t)



日本通運グループ 環境配慮車両保有台数 (台)

